

事業名	高等教育機関活用事業
-----	------------

総事業費	528 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	計画的で効率的な行政運営の推進
	基本事業名	広域的な取り組みの推進

② 実施 (Do)

事業の意図	設置へ向けた課題を解決する ①流出を防ぐ。(若年層の人口を確保する) ②種子島での教育の機会を与える。	
事業の実績 と 成果	取組内容	本年度は庁内及び庁外検討会や各種団体（有識者）等と課題解決策や今後の進め方について協議した。加えて、先進地視察や、県市町村課・保健福祉部協議など、看護学校設置の際に想定される問題点の解決策模索の取組みを中心に行った。
	成果	計画立案時に想定されていたであろう根本的な課題点について、明確な解決・対応策が示されていない中、再度、本事業に係る課題点の再整理や問題点の解決策模索の取組みを行った。但し、課題点の解決策は現段階では見いだせていない。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	事業実施に係る課題点（①地区単位での取組み、②実習先の確保、③設置場所）の解決が見込まれなければ、看護短期大学の設置は困難と判断される。課題点の概要としては、コンサルの調査報告では80人/学年で採算性が確保（※財政係試算では100人必要）とされているが、実習先の不足から80人確保は困難との有識者意見を確認しており、地区単位での取組みにおいても中・南の町長も消極的な考えであること、設置場所は旧榕城中跡地以外の場所を新たに確保する必要があるが、市街地周辺で20,000m ² の団地の土地確保は造成作業等必要な場合もあり多額の事業費がかかる可能性がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	設置に向けた検討では課題が明らかになった。一時的にでも若者が滞在することの効果は大きいことから、本市の特性や特色を生かした誘致や高校留学など、検討の幅を広げていく必要がある。ただし、政策的事業であることから、今後の取組については、市長の意向も確認しつつ、取組を検討する。

④ 改善 (Action)

2019年度方向性	これまで検討を重ねてきた看護短期大学の設置については、①地区単位での取組みや、②実習先の確保、③設置場所の選定など大きな課題があり、その解決についても難しい状況であるが、解決の糸口は探りつつも、今後はキャンパス誘致やサテライト型教室の設置、研究機関の誘致と高校を活用した活性化に向けた検討を進めていく。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明